

## 令和6年度中原区市民提案型事業結果報告会 摘録

- 1 日 時 令和7年7月15日（火）13時30分～15時30分
- 2 場 所 中原区役所4階403会議室
- 3 出席者 委 員 小倉委員長、今村副委員長、齋藤委員、大城委員（欠席：国谷委員）  
団 体 子育て支援グループ「いいんだよ」、有限会社ランプレッション、  
ごみるんるん、まちづくり推進委員会ゆかりの会、  
NPO法人多文化共生ボランティア団体KAM、connect、  
俳句フォトの会、中原健康卓球クラブ  
事務局 中原区役所まちづくり推進部企画課 齋藤課長、戸田課長補佐、永井職員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題 (1) 中原区市民提案型事業について（事務局）  
(2) 川崎市中原区市民提案型協働事業審査委員の紹介・あいさつ（審査委員長）  
(3) 令和6年度事業結果報告  
(4) 全体の講評（審査委員長）  
(5) 意見交換会

### 6 内 容

※摘録につき「である」調で記載、敬称等省略の上、ポイントを抜粋して記載

- (1) 中原区市民提案型事業について（事務局）  
事務局から中原区市民提案型事業の概要を説明。
- (2) 川崎市中原区市民提案型協働事業審査委員の紹介・あいさつ（審査委員長）

#### (3) 令和6年度事業結果報告

##### ア ステップアップコース 4団体

##### (ア) 事業名：子育て専門相談・出張ひろば

実施団体：子育て支援グループ「いいんだよ」

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(小倉委員長)

今年度の広報はどのようなやり方をしているのか。

(実施団体)

地域子育て支援センター等、つながりがある所には個別に連絡し、チラシを配架していただいている。全てのこども文化センターに個別に依頼するマンパワーは無く、そこまでは出来ていない。

(小倉委員長)

こども文化センターは、本部の青少年事業課にチラシを持参すれば全こども文化センターに配架することができる。

(齋藤委員)

相談に来た方と他の参加者のつながりづくり等は行っているか。

(実施団体)

メールアドレスは聞いているので、心配な方にはフォローのメールを送っているが、そうでない方には特別アクションは起こしていない。ただ、相談後に「いいんだよひろば」に来ていただく等、色々な形でつながっている。

(齋藤委員)

参加者にゆくゆくはスタッフとして働いていただけると、組織としての活動の幅が広がると思う。LINE等で情報発信しておく、やってみようという方が出てくるかもしれない。

(実施団体)

参加者は3月で仕事に復帰される方が多いが、残っている方もいるので、グループを作りコミュニティ的に関わっていったらと思う。

**(イ) 事業名：小学生のためのスクールコンサート**

**実施団体：有限会社ランプレッション**

**【実施団体からの事業結果報告】**

**【講評・質疑応答】**

(大城委員)

子どもにとって、近所に住んでいて、道で会えるかもしれない方が演奏してくれるというのは嬉しかったと思う。今後は市の助成金に替える等、広がりを目指しても良いと思う。

(実施団体)

今回の事業では、児童と一緒にコンサートで演奏するため、事前に学校を訪問し指導する日を設けた。しかし、訪問日程が増えた事で学校側との日程調整の面で課題を感じた。一方で、訪問した学校から後日指導の依頼もあり、ボランティアで指導に行く等、活動の広がりも生まれた。

**(ウ) 事業名：地域のウェルビーイングを高める事業**

**実施団体：ごみるんるん**

**【実施団体からの事業結果報告】**

**【講評・質疑応答】**

(齋藤委員)

広報力のある団体とコラボレーションして広報を実施されたとのことだが、催しでも同じやり方ができると思う。スイーツを作ることが得意かとお見受けするが、それは色々なものと組み合わせることができると思う。例えばスポーツ系の団体がイベントを実施する時に一緒に催しを実施するなど。また、ウェルビーイングの概念は、懐が深い概念であると思うので、色々な団体やテーマとつなげることができる。団体同士の専門性を組み合わせると、活動の幅が広がり、自身の知識が蓄積されていく。

(エ) 事業名：昔遊び指導者養成講座

実施団体：まちづくり推進委員会ゆかりの会

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(小倉委員長)

フォローアップの交流会を実施するなどし、講座の受講者をつなげていかなかったことが失敗であると思う。講座の作りとして、受講後に、「こども文化センター」や「わくわくプラザ」での団体の活動に何度か参加しなければならないといった形にしてしまうと良い。講座で学んだことを披露する場を絶対に作ることで、グループ化していく。今からでも遅くないので、受講者を集めて同窓会のような機会を設け、活動参加の呼びかけをしても良いと思う。

(実施団体)

受講者へのフォローアップについては、今後のイベントに向け参加の声掛けを行っている。

(小倉委員長)

個別に声掛けをするのではなく、集まることにより参加者はより増えると思う。

(今村副委員長)

区民祭の出展ブースの中でも大変人気があり、多世代交流もでき、文化の継承という意味でも意義ある活動であると思う。指導者を増やすという目的で考えると、少し残念であった部分もあるが、小倉委員長に助言いただいたことを生かしながら活動していった欲しい。

(齋藤委員)

指導者の育成について、自分で楽しむことと、人に教えることの間には階段がある。階段を狭くするために、マニュアルや指導書のようなものを作成、活用することも指導者育成のひとつの要素であると思う。指導書は、楽しい本や絵手紙といった形式であれば、チラシにも活用できる。

(実施団体)

一応、マニュアルはあるが、ブラッシュアップしていくこともありかと思った。

イ スタートコース 5団体

(ア) 事業名：地域と外国人をつなぐ多文化交流の機会創出

実施団体：NPO法人多文化共生ボランティア団体KAM

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(小倉委員長)

事業実施は大変であったと思うが、たくさんのメンバーが集まったことで、活動の基本が出来たと思う。地道に地域の中で賛同者を増やしていきながら、地域拠点として元住吉で活動を広げていただいただけると有難い。

(齋藤委員)

日本の文化を知っていただく、馴染んでいただくといった事業かとお見受けするが、逆に、外国人の方に自国の文化を紹介していただく機会があっても良いのではないか。地域の方が参加を呼びかけられた時、外国の知らない料理が食べられるといった要素があると、参加したくなるのではないかと思う。そのために、外国人の参加者の中で一緒に運営をしてくださる方が見つければ良いが、そういった関係になられた方はいらっしゃるか。

(実施団体)

本事業がきっかけでつながった外国人の参加者とSNSでグループを作って継続的に交流を行っており、外国の料理を一緒に食べるといったこともしている。また、ボランティアとして参加している高校生の学校で、お互いの国の料理を作って紹介するといった活動も個人的に始めた。これがきっかけに活動が広がっていけば良いと思っている。

(大城委員)

参加される外国人の方はどの年代の方が多いか。

(実施団体)

20～30代の社会人が多い。

(大城委員)

そういった年代であれば、自国の文化を紹介することができると思うので、そういった広がりがあると楽しい。

#### (イ) 事業名： シングル親子ハイキング、買い物送迎支援

実施団体： connect

【実施団体からの事業結果報告】

【講評・質疑応答】

(小倉委員長)

一番大きなネックとなっている配車の問題については、ボランティアで大型のバンを持っている方を募り、保険をかけて配車いただけると解決するのではないかと思う。

(実施団体)

本事業で買い物に行った商業施設は、1人の会員権で大人2名、子ども数名しか入店できないので、会員権を持つサポーターも増やしていきたい。また、ガソリン代や諸経費を支払うことができる準備はしていきたいと思う。

(小倉委員長)

協力してくれる方は意外とたくさんいる。口伝えで探すと意外と見つかる。

#### (ウ) 事業名： 編み物を通じた仲間作り事業

実施団体： シルク・ドゥ・フィル (糸のサーカス)

【実施団体からの事業結果報告】

当日欠席のため無し

**(エ) 事業名： 中原を俳句フォト**

**実施団体： 俳句フォトの会**

**【実施団体からの事業結果報告】**

**【講評・質疑応答】**

(齋藤委員)

発信できる俳句フォトの素材が集まっているとのことなので、カレンダーや観光マップを作ってみたり、コンテストをやってみたりすると、活動が発展していくのではないかと思う。

(小倉委員長)

俳句フォトを作る上で、写真撮影のために外歩きをしなければならない。高齢者の参加もあるとのことだが、外歩きは健康につながるので、今後はアピールに入れていくと良いと思う。俳句・写真・まちの魅力再発見・健康といったアピールをしていくと、興味を持つ参加者も増えると思う。長く続けていただければと思う。

(齋藤委員)

夫婦の参加者は、どちらの希望で参加されている方が多いのか。

(実施団体)

夫の方が多いようだ。

**(オ) 事業名： 卓球（サウンドテーブルテニス）を通じた仲間づくり事業**

**実施団体： 中原健康卓球クラブ**

**【実施団体からの事業結果報告】**

**【講評・質疑応答】**

(小倉委員長)

サウンドテーブルテニスのネットは、特別な形状のネットか。販売はしているか。

(実施団体)

サウンドテーブルテニス専用の卓球台とネットがあり、販売されている。しかし、専用の卓球台とネットが揃っている施設は限られており、一般的な卓球台・ネットがある施設にて活動している。サウンドテーブルテニス用ではないが、市販されているネットの下を球が通るように工夫し、臨機応変に対応して練習している。

**(4) 全体の講評（審査委員長）**

**(5) 意見交換会**

**【テーマ】**

- ①市民活動を始める時に苦労したことは？
- ②市民活動を続けるにあたり苦労していることは？

**【意見交換】**

(有限会社ランプレッション)

ステップアップコースは既に実施した事業と同じ事業は提案できないため、コンサートと指導で2日間のプログラムとしたが、スケジュール調整が難しくなった。市民活動は継続することに意味があると思うので、継続型の事業も支援していただくとありがたい。今後も地元企業として中原区で事業実施していきたい。

(小倉委員長)

出演料が必要な形で学校での事業実施は難しいため、音楽系の事業は文科省の助成金で実施することが多い。ただし、対象が中原区だけではなくなる。また、教育委員会に相談して事業をやっていく手もある。実績作りという意味では、コンサートだけであればできると思う。

(大城委員)

校長先生が変わると方針も変わってしまう。

(connect)

今年度ステップアップコースの募集が無かった理由を聞きたい。

(戸田課長補佐)

他の助成事業との重複感といった課題が見られたり、地域課題解決のために協働で事業実施していることの意味合いを考えたりするために、一旦休止して見直しを図っている。こういった場で皆さんの活動実態を知りながら、協働事業としてどういったあり方が良いのか検討しなければならないと思っている。

(小倉委員長)

本日参加している団体の半分は社会福祉協議会の助成金の申請ができると思う。高額ではないが、地道に活動する団体には良く、年数制限もない。区の制度しかないと思わず、色々な助成金を選択肢に入れると良い。

(齋藤委員)

審査する時に迷っているのが、市民提案型事業は市民活動が自立する後押しをするものか、市民が考える課題の解決に向けて行政と協働で取り組むものか。同じことをずっとやっても自立できないが、そこは社会福祉協議会の助成金で受け入れていただいているのだと思う。市民提案型事業は仕組みを作って自立していく受け皿だと思っている。

(まちづくり推進委員会ゆかりの会)

団体メンバーの半分が高齢者となっている。団体の継続にあたってはメンバーも必要だと思うが、他団体へ事業だけ承継する形もありなのではないかと考えている。事業承継のマッチング制度があると面白いと思う。

(小倉委員長)

団体を続けるか、事業を続けるか。団体を続けることはやめたほうが良い。世代が変わると考え方が変わり、やり方も変わる。団体メンバーの高齢化により若者を呼ぶと、旧来のやり方を押し付けようとする人が多いが、若者にとってこのやり方は駄目。思いをつなげることはできると思う。例えば、ソーシャルデザインセンターでプロジェクトを作って、講師としてやり方を伝え、プロジェクトから新しい団体を作るようなやり方をすると区としても良いのではないかと思う。

(まちづくり推進委員会ゆかりの会)

個人的にはその方向に持っていきたいと思っている。行政は信用力があると思うので、そう

いったことを行政が間に入って実施していただけると良いのではないかと思います。

(大城委員)

助成金事業によって使い方が全く違う。かわさき市民公益活動助成金は、公益活動で幅広い方を対象として、事業をどんどん発展させて自立を目指すように言われる。自身はプレイセンターかんがる〜という団体で活動しているが、子育てサークルのため毎年新しい参加者が増える。そのような状況の中で事業を発展させていくと、新しい参加者がついていけない。助成する側が助成金事業の内容や目的をきちんと説明し、助成を受ける側もどういった助成金事業が自分たちの事業に合っているのか見極める必要がある。

(子育て支援グループ「いいんだよ」)

スタートアップコースからステップアップコースに上がる時に、新しい事業でない対象とされないということがネックになった。とりあえず始めて仕組みを作った事業を発展させるためにステップアップコースを使いたいの、既に実施している事業が対象外となると、難しかった。同じ事業でスタートコースからステップアップコースにつなげる形にしていただけると、使いやすいと思う。

(小倉委員長)

かわさき市民公益活動助成金は、事業内容は同じでもプラスアルファがないと申請ができない。

(齋藤委員)

スタートコースは広報や仲間集めにより認知してもらうもので、お金がそれほどかからない事業を実施するもの。次に、ステップアップコースはその事業を発展させるためにプログラムを増やしたり、自立するための参加費を取れるような何かを仕掛けたりして、お金がかかる事業を実施するもの。プログラムの中身の違いというよりは、発展段階の内容の違いという理解をしている。

(小倉委員長)

例えば、相談事業を月1回から月2回にしたり、活動場所を1箇所から2箇所にしたりすることは大きな違い。

(齋藤課長)

ステップアップコースを今後どうしていくかは、こういった場で御意見をいただいたことを踏まえながら、どういった制度にしていくべきか考えていきたいと考えている。

(戸田課長補佐)

お金以外にはどういった支援があるといいか。

(小倉委員長)

お金のことは一番大事だと思うが、少額でもいいから参加費を取ることが大事。参加者もいい加減に参加できなくなるし、団体も責任を持っていただいたお金で運営していくということを考えたほうが良い。講師料や会場費がかかること等の理由をきちんと説明すれば、参加者もきちんと出してくれる。

(ごみるんるん)

材料費で1000円取ったが、市の公共施設はお金を取ると営利目的を疑われて貸してくれない部屋が多かった。市の公共施設のレギュレーション(基準や規則)を明確にしておいてい

ただきたい。

(小倉委員長)

昔から課題となっている。お金を取れないので、団体が自立するために市民館を使えず、また黒字にならないから助成金を申請するという状況になっている。市が団体の自立を目指すのであれば、市民館に収支を提出し、承認を受けた団体はお金を取って事業ができる仕組みを整えてほしい。それができると、助成金がなくとも事業実施できる団体がたくさん生まれると思う。

(子育て支援グループ「いいんだよ」)

他区の市民提案型事業では集客に難航し事業実施できなかったという話を聞いた。集客出来た方は、区にお願いして小学校や幼稚園等にチラシの配布を行った。中原区は集客出来ていてすごいと思った。

(小倉委員長)

スタートコースの団体は、区でそういった広報ができることを知らない。協働事業なので、区役所から団体にどういった広報ができるのか伝える必要がある。

(戸田課長補佐)

地域課題解決の視点と、市民と協働で事業を実施するという視点があり、それぞれのスタンスが区によって違う。区が課題を設定して、それに対して取り組んでくれる団体を募集するやり方もあれば、課題も含めて市民の皆さんに考えていただくやり方もある。

(ごみるんるん)

団体の自立は大切な目的ではあるが、大元をたどると、地域課題の解決になると思う。例えば、中原区の地域課題の大きなテーマを区が設定し、実行委員会のような形で、一つの団体ではなく、コンペを実施し、10団体までイベントができます、といったような設定が出来れば、色々な団体が地域課題解決に向けて協力して事業実施することで、化学変化も起きると思う。行政主導となるとお金の面で課題もあると思うので、地域の企業にも入っていただく。なかはらっぱ祭りのテーマを決めた大きい版でやると良いのではないかと思う。

(俳句フォトの会)

元々、東京のある特別区に勤めていた。そこと比べると、市民活動支援やご近所さんぽなど、職員がアイデアを出して施しており、中原は良い。職員が市民に寄り添って、一緒にやろうという意識を感じる。

以上